



さんないまるやま つうしん

第 8 号

平成10年 1月23日

青森県教育庁文化課

三内丸山遺跡対策室

〒030 青森市新町 2丁目 3-1

TEL (0177) 22-1111 (内5251・2)

FAX (0177) 77-5077

三内丸山遺跡対策室 松原分室

〒030 青森市松原 1丁目 14-11

TEL (0177) 74-0455

FAX (0177) 74-0456

三内丸山通信

新発見の連続

発掘調査のまとめ

今年の成果



第10次調査で確認された竪穴遺構

第8次調査は、二列に並んだ大人の墓の範囲を確認するために、調査を行いました。

その結果、集落の中心から台地の東端まで約四二〇mにわたって、延びていることが分かりました。最も



大人の墓の列（黒く見えるのが墓）

端の部分は、標高七mほどで、当時は水辺に近かったと考えられます。今回見つかった墓の中には、石で周りを囲んだり、土を盛り上げたり、石を上置きしたりしたものがあります。これらは、墓の目印と考えられます。これまでの調査で、

墓地は他に例がないほど大規模で整然と造られていることが分かりました。

第9次調査は、昨年度出土したクリの柱の周囲を調査しました。周りからは、柱穴がいくつも確認されました。また、新たにもう一本クリの柱も見つかりました。

柱穴がいくつも見つかったことから、その場所に建物が何度も建て替えられ、使われたことが分かります。柱穴は、それぞれ六本ずつの組み合わせになるようです。したがって、川に面した、集落から少し下がった低いところにも何らか



掘立柱建物跡（線で囲んであるもの）

の施設があったと考えられます。

第10次調査は、南地区の集落の広がりや変遷をつかむため、調査を行いました。調査の結果、縄文時代の



竪穴住居跡

竪穴住居跡二十四棟、竪穴遺構十七基、七十四基の土坑などを確認しました。

遺物は縄文土器や石器、土偶、石製品、コハク原石などダンボール箱で二十四箱出土しています。

遺構や遺物は縄文時代中期中葉の円筒上層e式のものが多いことがわかり、三内丸山遺跡の最盛期には南地区へ集落が拡大していることが明らかになりました。



縄文最前線！

—東京でシンポジウム—

十一月三十日、東京有楽町朝日ホールで「三内丸山遺跡・縄文シンポジウム、縄文最前線」が開催されました。今回は三回目になります。当日は約八〇〇名の聴講があり、会場は満席となりました。

まず、今年の三内丸山遺跡の発掘調査の概要がスライドを使って報告されました。続いて、最近注目されている「大船C遺跡」（北海道南茅部町教育委員会阿部千春さん）・「御所野遺跡」（岩手県一戸町教育委員会高田和徳さん）・「桜町遺跡」（富山県小矢部市教育委員会伊藤隆三さん）



ん）・「中里貝塚」（東京北区教育委員会中島広顕さん）などの各遺跡について、実際に調査をしている方から発掘調査の様子や最新情報の報告がされました。



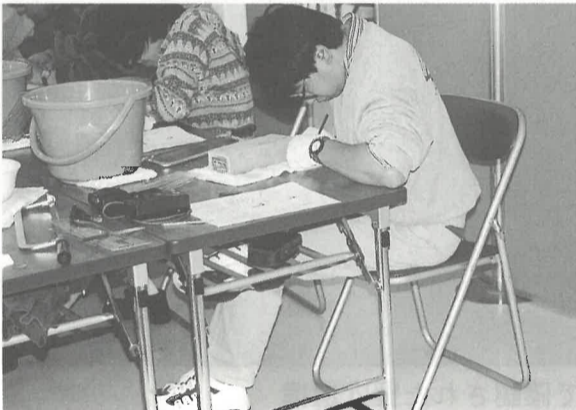
後半は、岡村道雄先生（文化庁）をコーディネーターに、報告者をパネラーとして小山修三先生（国立民族学博物館）、辻誠一郎先生（国立歴史民俗博物館）に参加していただきパネルディスカッションを行い、少しずつ明らかになってきた集落全体の様子や縄文時代の人々の生活について討論されました。

気分は縄文人？

—体験学習—

十二月十三日に、体験学習館で鹿の角を使った釣針づくりが行われました。

当日は青森市内を中心に約三十名が参加しました。北海道の南茅部町から参加した酒井充さんは、「北海道でも、今までにいろいろな体験学習に参加しましたが、釣針を作るのは今回が初めてです。角が堅くて



釣針の形にするのが難しいけれどやってみるとおもしろい。次は完成した釣針を実際に使って釣りをしたいですね。」と話してくれました。

参加した人たちは、縄文人の技術と苦勞に思いをめぐらせると同時に、予想以上に堅い鹿の角に苦勞しながら、思い思いの形に仕上げていました。

連載 ⑥ 『三内丸山遺跡の建物跡』

遺跡では、今までに八〇〇棟を越える建物跡が発見されています。これらの建物跡には平地式住居跡、竪穴式住居跡、高床式建物跡があります。平地式住居跡は、円形や楕円形で地面を掘らずに、外側に柱を立てて壁を造り、壁で屋根を支えます。竪穴式住居跡は円形、楕円形、隅丸方形をしています。地面に穴を掘り、柱を立てて屋根を支えます。また祭壇として使われたと考えられる円形の張り出しや、生活空間を使い分けるための段差など、さまざまな付属施設もあります。



建物跡の中には、大型のものもあります。それが大型竪穴式住居跡・高床式建物跡です。大型竪穴式住居跡は、長さが十メートルを越える竪穴住居跡を呼び、遺跡では最大で長さ三十二メートルのものが発見されています。集会所、共同作業

場、共同住居などが考えられます。高床式建物跡は、地面より床が高い建物です。規模の小さなものは、貯蔵庫など機能が考えられ、規模の大きなものは、



祭祀施設、物見櫓などが考えられます。これらの建物跡は柱の間隔がすべて三十五cmの倍数を使って造られています。

情報展

三内丸山遺跡の建物跡

遺跡で様々な建物跡が発見されています。これまでの調査をもとに建物がどのような構造をしているのか、また一、五〇〇年間でどのように変化していかかを紹介します。

ライトアップ されました

昨年に引き続き、今年度も十二月二十日から一月四日まで、大型掘立柱建物ライトアップされました。期間中は、展示室の開館時間も午後八時まで延長され、多くの人々が夜の三内丸山遺跡を訪れました。



訪れた人たちは、冬の寒さも忘れて、縄文人が見ることのできなかった雪と光と遺跡が作り出す幻想的な空間に見入っていました。

三内丸山遺跡の「ごあんない」

- 見学時間 9:00～16:30
(入場は16:00まで)
ボランティアガイドの定時説明は昨年11月30日をもちまして終了しました。
- 交通手段 市営バス
青森駅から運転免許センター行き
三内丸山遺跡前下車
園路は除雪を行っています
靴が濡れやすいので、歩きやすい靴をおこしください。
- その他